



2023年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2022年7月28日

上場会社名 ブロードメディア株式会社
コード番号 4347 URL <https://www.broadmedia.co.jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 橋本 太郎

問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営管理本部長 (氏名) 押尾 英明

TEL 03-6439-3983

四半期報告書提出予定日 2022年8月10日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第1四半期の連結業績(2022年4月1日～2022年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第1四半期	3,203	5.9	289	55.4	314	55.2	272	13.9
2022年3月期第1四半期	3,024	11.8	186	43.6	202	47.4	316	247.7

(注) 包括利益 2023年3月期第1四半期 296百万円 (30.4%) 2022年3月期第1四半期 426百万円 (271.1%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第1四半期	37.00	
2022年3月期第1四半期	41.16	

(注) 当社は、2021年10月1日付で、普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行っております。これに伴い、1株当たり四半期純利益は、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年3月期第1四半期	8,571	4,663	41.4	481.61
2022年3月期	8,940	4,610	38.8	470.74

(参考) 自己資本 2023年3月期第1四半期 3,544百万円 2022年3月期 3,466百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期		0.00		25.00	25.00
2023年3月期					
2023年3月期(予想)		0.00		30.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	13,600	10.2	1,000	14.2	1,050	12.3	1,050	3.9	142.65

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期1Q	7,914,732 株	2022年3月期	7,914,732 株
期末自己株式数	2023年3月期1Q	554,433 株	2022年3月期	549,943 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期1Q	7,362,654 株	2022年3月期1Q	7,684,420 株

(注)当社は、2021年10月1日付で、普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行っております。これに伴い、期中平均株式数(四半期累計)は、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、算定しております。

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的と判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因によって異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(セグメント情報等)	11
(収益認識関係)	13
(重要な後発事象)	14

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

前連結会計年度において非連結子会社であったブロードメディアeスポーツ(株)は、重要性が増したため当第1四半期連結累計期間より連結の範囲に含めております。これに伴い、当第1四半期連結累計期間より報告セグメントに「その他」を新設し、ブロードメディアeスポーツ(株)と、従来、「技術」に区分していたネットワーク営業を「その他」に集約しております。

詳細は、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項」の「(セグメント情報等) IIの4. 報告セグメントの変更等に関する事項」をご参照ください。

なお、前第1四半期連結累計期間との比較、分析は、変更後のセグメントの区分に基づいております。

当第1四半期連結累計期間における売上高は、前年同期と比べ179,091千円(5.9%)増加し、3,203,486千円(前年同期は3,024,395千円)となりました。「スタジオ・コンテンツ」「その他」は減収となりましたが、「教育」「技術」が増収となったこと等により、売上高は増加いたしました。

営業利益は、289,408千円(前年同期は186,204千円)となりました。「スタジオ・コンテンツ」「その他」が損失を計上したものの、「教育」「技術」「放送」が増益となったことが要因となり、増益となりました。

経常利益は、314,916千円(前年同期は202,971千円)となりました。営業利益の増加に加え、持分法投資利益や為替差益を計上したこと等により、経常利益も増益となりました。

親会社株主に帰属する四半期純利益は、272,391千円(前年同期は316,318千円)となりました。前年同期に発生した、(株)釣りビジョンにおける架空取引被害に係る損害賠償請求訴訟の和解による解決金がなかったこと等により、親会社株主に帰属する四半期純利益は減益となりました。

(2022年6月30日現在)

セグメントの名称	事業内容	主な業務の内容	主な連結子会社
教育	通信制高校	・イーラーニングシステムを利用した単位制・広域通信制高校 「ルネサンス高等学校」「ルネサンス豊田高等学校」 「ルネサンス大阪高等学校」のルネサンス高等学校グループの運営	—
	日本語教育	・日本語研修・日本語教師養成講座を提供する「日本語センター」の運営	—
スタジオ・コンテンツ	デジタルメディアサービス	・マルチデバイス向けコンテンツ配信サービス「クランクイン!ビデオ」 「クランクイン!コミック」の提供 ・エンタメ・情報サイト「クランクイン!」「クランクイン!トレンド」 の企画・運営	—
	制作事業	・日本語字幕制作、日本語吹替制作、文字放送字幕制作、番組宣伝制作	—
	コンテンツ販売事業	・劇場映画の製作・配給 ・テレビ放映権の販売 ・VOD権の販売、DVD/Blu-rayの発売	—
放送	釣り専門チャンネル	・衛星基幹放送事業「BS釣りビジョン」の番組制作、放送及び、ケーブルテレビ局等への番組供給 ・映像の受託制作	(株)釣りビジョン
	釣りビジョンVOD	・マルチデバイス向け動画配信サービス「釣りビジョンVOD」の提供	
技術	クラウドソリューション	・クラウドゲームサービスの提供 ・通信事業者へのクラウドゲームプラットフォーム提供及びゲーム事業者へのクラウドゲーム機能提供 ・スマートフォン向けクラウドゲームアプリの提供	Oy Gamecluster Ltd.
	デジタルシネマサービス	・ブロードメディア*CDN for theaterの提供、及び上映システムの設計・販売及びレンタル ・映画館へデジタル機材の導入を推進する配給・興行向けVFPサービスの提供	—
	アカマイサービス	・コンテンツを最適な形で配信する「CDNサービス」、 「セキュリティサービス」の提供	—

セグメントの名称	事業内容	主な業務の内容	主な連結子会社
技術	ホスピタリティ・ネットワーク	・ホテルの客室・会議室へのインターネットサービスの提供、機器の監視及び保守サービスの提供	—
	システム開発	・設計からソフトウェア開発、保守運用までワンストップのシステム開発を提供	システムデザイン開発㈱
	その他ソリューションサービス	・グローバルに展開されたプライベートネットワーク「Aryaka」等の提供 ・画像解析技術を駆使した小売業向け次世代型AIソリューション「Vue.ai」の提供 ・CM素材をオンラインで搬入する「CMオンラインサービス」の提供	—
その他	プロeスポーツ推進事業	・プロeスポーツチーム「CYCLOPS athlete gaming」の運営 ・eスポーツ関連イベントの企画・運営	ブロードメディアeスポーツ㈱
	ネットワーク営業	・通信キャリア等の通信商材の拡販	—
	全社費用	・ブロードメディア(株)本社の管理業務（人事総務、財務経理、法務等）及びグループ会社の統括管理 ・グループ全体の支援（生産性向上・効率化・ガバナンス強化等）	—
	持分法適用関連会社（注）	・全テレビ番組録画機の企画・製造・販売、及びテレビ番組ソーシャルサービスの運営	ガラボン㈱

（注） 「持分法適用関連会社」に含まれる事業は、報告セグメントには含まれておりません。

当第1四半期連結累計期間におけるセグメントごとの売上高及び営業損益の概況は、以下のとおりです。

①教育

「教育」セグメントは、「ルネサンス高等学校」「ルネサンス豊田高等学校」「ルネサンス大阪高等学校」の広域通信制高校（ルネサンス高等学校グループ）の運営、日本語研修・日本語教師養成講座を提供する「日本語センター」の運営を行っております。

売上高は、前年同期と比べ210,515千円（28.1%）増加し、960,515千円（前年同期は749,999千円）、営業利益は318,614千円（前年同期は206,948千円）となりました。

ルネサンス高等学校グループの入学生徒数が7期連続で過去最高を更新したことにより、増収増益となりました。

②スタジオ・コンテンツ

「スタジオ・コンテンツ」セグメントは、マルチデバイス向けのコンテンツ配信を行うデジタルメディアサービス、映画やドラマ等の映像作品の調達、日本語字幕・吹替制作から、その作品の配給、販売を行っております。

売上高は、前年同期と比べ84,495千円（12.6%）減少し、584,657千円（前年同期は669,153千円）、営業損益は52,706千円の損失（前年同期は9,222千円の損失）となりました。

制作事業は受注の後ろ倒しの影響等により減収となったものの、営業利益は前年同期と同水準となりました。コンテンツ販売事業はテレビ向け番組販売が大幅に減少し、デジタルメディアサービスは企業の広告費削減の影響により広告収入の減少が続いていること等から、いずれも赤字幅が拡大いたしました。その結果、「スタジオ・コンテンツ」セグメントは減収減益となりました。

③放送

「放送」セグメントは、釣り専門番組「釣りビジョン」の制作、BS・CS放送及びケーブルテレビ局等あての番組供給事業、マルチデバイス向け動画配信サービス「釣りビジョンVOD」の提供を行っております。

売上高は、前年同期と比べ14,974千円（2.3%）減少し、634,758千円（前年同期は649,732千円）、営業利益は78,567千円（前年同期は67,475千円）となりました。

スポンサー収入や「釣りビジョンVOD」の売上は増加したものの、視聴料収入の減少傾向が続いている影響により若干の減収となりました。一方で、BS放送に係る衛星利用料が低減されたこと等により、営業利益は増益となりました。

④技術

「技術」セグメントは、クラウドソリューション、デジタルシネマサービス、CDN（コンテンツ・デリバリー・ネットワーク）サービス、ホテルの客室・会議室へのインターネットサービス、システム開発、及びその他ソリューションサービスの提供を行っております。

売上高は、前年同期と比べ169,641千円(20.7%)増加し、989,880千円(前年同期は820,239千円)、営業利益は108,692千円(前年同期は77,487千円)となりました。

主力のアカマイサービスはCDNサービスに加え、セキュリティサービスの既存顧客や新規顧客への提供拡大が続いていること等により、増収となりました。クラウドゲームサービスはアプリ販売や開発受注が減少し、減収となりました。デジタルシネマサービスは低調に推移いたしました。また、前第2四半期連結累計期間より連結子会社となったシステムデザイン開発(株)は、当期は第1四半期より取り込んでいるため、「技術」セグメントの売上高及び営業利益の増加に寄与しております。その結果、「技術」セグメントは増収増益となりました。

⑤その他

「その他」セグメントは、プロeスポーツチーム「CYCLOPS athlete gaming」の運営やeスポーツ関連イベントの企画・運営、通信キャリア等の通信商材の拡販が含まれております。

売上高は、前年同期と比べ101,596千円(75.1%)減少し、33,673千円(前年同期は135,270千円)、営業損益は14,800千円の損失(前年同期は21,852千円の利益)となりました。

当第1四半期連結累計期間よりブロードメディアeスポーツ(株)を連結の範囲に含めておりますが、ネットワーク営業がブロードバンド回線の販売の新規獲得活動を休止したことにより、「その他」セグメントは大幅な減収となり、赤字を計上いたしました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(イ) 資産

流動資産は、BS放送に係る衛星利用料を前払いしたことで前払費用が増加した一方、現金及び預金が減少したこと等により、前期末に比べ410,370千円減少し、6,939,734千円となりました。固定資産は、建物付属設備や工具器具備品等の有形固定資産が増加したこと等により前期末に比べ41,014千円増加し、1,631,364千円となりました。これらの結果、総資産は、前期末に比べ369,356千円減少し、8,571,099千円となりました。

(ロ) 負債

流動負債は、預り金が増加した一方、未払法人税等や前受金が減少したこと等により、前期末に比べ416,627千円減少し、3,568,454千円となりました。固定負債は、長期リース債務が減少したこと等により前期末に比べ5,336千円減少し、339,424千円となりました。これらの結果、負債合計は、前期末に比べ421,964千円減少し、3,907,878千円となりました。

(ハ) 純資産

配当金の支払いがあった一方、親会社株主に帰属する四半期純利益272,391千円を計上したこと等により、純資産合計は前期末に比べ52,607千円増加し、4,663,220千円となりました。これにより、自己資本比率は41.4%となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第1四半期末における現金及び現金同等物の残高は、前期末に比べて693,977千円減少し、4,607,602千円となりました。

(イ) 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、マイナス429,135千円(前年同期はプラス116,672千円)となりました。税金等調整前四半期純利益314,016千円を計上したことに加え、預り金が増加した一方で、法人税等の納税や賞与の支払いがあったこと等により、営業活動によるキャッシュ・フローはマイナスとなりました。

(ロ) 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは、通信制高校事業の拠点拡大に伴う固定資産の取得があったこと等から、マイナス92,783千円(前年同期はマイナス67,168千円)となりました。

(ハ) 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払いに加え、リース債務や借入金の返済による支出があったこと等から、マイナス206,867千円(前年同期はマイナス33,580千円)となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年4月27日に公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,303,229	4,609,402
受取手形及び売掛金	1,098,799	1,157,957
商品及び製品	5,193	2,720
仕掛品	131,499	216,670
原材料及び貯蔵品	4,328	5,796
番組勘定	494,056	479,150
その他	318,931	471,877
貸倒引当金	△5,933	△3,840
流動資産合計	7,350,105	6,939,734
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	175,106	203,939
工具、器具及び備品（純額）	167,449	191,719
その他（純額）	248,679	235,292
有形固定資産合計	591,235	630,950
無形固定資産		
のれん	135,383	130,012
その他	155,181	154,946
無形固定資産合計	290,564	284,958
投資その他の資産		
投資有価証券	137,116	131,621
破産更生債権等	545,336	545,746
その他	625,037	633,688
貸倒引当金	△598,940	△595,600
投資その他の資産合計	708,550	715,456
固定資産合計	1,590,350	1,631,364
資産合計	8,940,456	8,571,099

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	576,041	532,878
短期借入金	512,324	511,464
1年内償還予定の社債	90,000	90,000
未払法人税等	321,741	19,781
前受金	1,458,472	1,274,653
賞与引当金	283,473	81,843
その他	743,028	1,057,833
流動負債合計	3,985,082	3,568,454
固定負債		
社債	125,000	125,000
その他	219,760	214,424
固定負債合計	344,760	339,424
負債合計	4,329,843	3,907,878
純資産の部		
株主資本		
資本金	600,000	600,000
利益剰余金	3,401,924	3,482,374
自己株式	△541,470	△545,084
株主資本合計	3,460,454	3,537,289
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	6,476	7,469
その他の包括利益累計額合計	6,476	7,469
非支配株主持分	1,143,682	1,118,461
純資産合計	4,610,613	4,663,220
負債純資産合計	8,940,456	8,571,099

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
売上高	3,024,395	3,203,486
売上原価	1,901,168	1,960,123
売上総利益	1,123,227	1,243,362
販売費及び一般管理費	937,023	953,954
営業利益	186,204	289,408
営業外収益		
受取利息	317	256
受取配当金	-	1
為替差益	-	9,413
貸倒引当金戻入額	6,667	4,733
持分法による投資利益	5,861	4,504
受取事務手数料	4,384	5,857
その他	3,460	3,755
営業外収益合計	20,690	28,522
営業外費用		
支払利息	2,719	2,946
その他	1,204	67
営業外費用合計	3,923	3,014
経常利益	202,971	314,916
特別利益		
受取和解金	331,500	-
特別利益合計	331,500	-
特別損失		
減損損失	1,091	899
特別損失合計	1,091	899
税金等調整前四半期純利益	533,379	314,016
法人税、住民税及び事業税	136,998	10,405
法人税等調整額	△27,113	8,032
法人税等合計	109,884	18,438
四半期純利益	423,495	295,578
非支配株主に帰属する四半期純利益	107,177	23,187
親会社株主に帰属する四半期純利益	316,318	272,391

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
四半期純利益	423,495	295,578
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	263	993
持分法適用会社に対する持分相当額	2,466	-
その他の包括利益合計	2,729	993
四半期包括利益	426,225	296,571
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	319,048	273,384
非支配株主に係る四半期包括利益	107,177	23,187

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	533,379	314,016
減価償却費	51,166	52,459
減損損失	1,091	899
のれん償却額	837	5,371
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△7,070	△5,433
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△146,099	△203,344
受取利息及び受取配当金	△317	△258
支払利息	2,719	2,946
持分法による投資損益 (△は益)	△5,861	△4,504
受取和解金	△331,500	-
売上債権の増減額 (△は増加)	△188,531	△42,607
棚卸資産の増減額 (△は増加)	21,420	△69,259
仕入債務の増減額 (△は減少)	△76,905	△63,413
未払又は未収消費税等の増減額	△5,740	△3,760
その他の資産・負債の増減額	△39,650	△112,687
その他	1,851	△14,501
小計	△189,208	△144,078
利息及び配当金の受取額	0	1
利息の支払額	△2,507	△2,341
和解金の受取額	331,500	-
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△23,111	△282,716
営業活動によるキャッシュ・フロー	116,672	△429,135
投資活動によるキャッシュ・フロー		
固定資産の取得による支出	△50,958	△92,088
貸付けによる支出	△5,000	△5,000
貸付金の回収による収入	3,750	3,750
その他	△14,960	554
投資活動によるキャッシュ・フロー	△67,168	△92,783
財務活動によるキャッシュ・フロー		
借入金の返済による支出	-	△3,081
リース債務の返済による支出	△33,580	△18,750
自己株式の取得による支出	-	△3,614
配当金の支払額	-	△142,898
非支配株主への配当金の支払額	-	△38,523
財務活動によるキャッシュ・フロー	△33,580	△206,867
現金及び現金同等物に係る換算差額	180	17,298
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	16,103	△711,488
現金及び現金同等物の期首残高	3,368,262	5,301,579
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	-	17,510
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,384,365	4,607,602

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						全社	合計
	教育	スタジオ・コンテンツ	放送	技術	その他	計		
売上高	749,999	669,153	649,732	820,239	135,270	3,024,395	—	3,024,395
セグメント利益又は損失 (△)	206,948	△9,222	67,475	77,487	21,852	364,541	△178,337	186,204

(注) セグメント利益又は損失(△)における「全社」は、報告セグメントに帰属しない共通費用であります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

報告セグメントの利益又は損失の合計額と四半期連結損益計算書の営業利益に差額があります。その差額の内容は報告セグメントに帰属しない共通の費用であり、グループ本社(ブロードメディア株)の管理部門に係る費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「技術」セグメントにおける事業用資産について、減損損失を認識いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第1四半期連結累計期間において1,091千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						全社	合計
	教育	スタジオ・コンテンツ	放送	技術	その他	計		
売上高	960,515	584,657	634,758	989,880	33,673	3,203,486	—	3,203,486
セグメント利益又は損失 (△)	318,614	△52,706	78,567	108,692	△14,800	438,368	△148,960	289,408

(注) セグメント利益又は損失(△)における「全社」は、報告セグメントに帰属しない共通費用であります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

報告セグメントの利益又は損失の合計額と四半期連結損益計算書の営業利益に差額があります。その差額の内容は報告セグメントに帰属しない共通の費用であり、グループ本社(ブロードメディア㈱)の管理部門に係る費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「技術」セグメントにおける事業用資産について、減損損失を認識いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第1四半期連結累計期間において899千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

4. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社グループはこれまで、「教育」「スタジオ・コンテンツ」「放送」「技術」の4つのセグメントに事業を区分しておりましたが、当第1四半期連結累計期間より、「教育」「スタジオ・コンテンツ」「放送」「技術」「その他」の5つのセグメントに変更致しました。

(1) 連結子会社化したブロードメディアeスポーツ(株)を、新たに「その他」として区分

(2) 「技術」セグメントに含まれていたネットワーク営業を、新たに「その他」として区分

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後のセグメントの区分に基づき作成しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)

(単位:千円)

	独自商製品等の ストック収益	独自商製品等の フロー収益	独自商製品以外 のストック収益	独自商製品以外 のフロー収益	外部顧客への 売上高
教育	749,749	250	-	-	749,999
スタジオ・コンテンツ	-	497,394	114,068	57,689	669,153
制作事業	-	428,775	-	-	428,775
その他	-	68,619	114,068	57,689	240,377
放送	534,302	115,429	-	-	649,732
技術	114,699	47,793	654,341	3,404	820,239
アカマイサービス	-	-	639,413	-	639,413
その他	114,699	47,793	14,927	3,404	180,825
その他	-	-	-	135,270	135,270
合計	1,398,752	660,868	768,410	196,364	3,024,395

(注) 独自商製品等のストック収益とは、教育サービス・放送の視聴料・技術の企業向けクラウドサービス等、オリジナルサービスの提供等に伴う収益が該当し、原則継続的に積み上がる収益です。

独自商製品等のフロー収益とは、スタジオ・コンテンツや放送の制作・広告・スポンサーの収入等、オリジナルサービスの提供等に伴う収益が該当し、都度計上される収益です。

独自商製品以外のストック収益とは、スタジオ・コンテンツのコンテンツ配信や技術のアカマイサービス等、第三者が原権利を有している商製品の提供等に伴う収益が該当し、原則継続的に積み上がる収益です。

独自商製品以外のフロー収益とは、スタジオ・コンテンツの番組販売等、第三者が原権利を有している商製品の提供等に伴う収益が該当し、都度計上される収益です。

当第1四半期連結累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年6月30日）

(単位：千円)

	独自商製品等の ストック収益	独自商製品等の フロー収益	独自商製品以外 のストック収益	独自商製品以外 のフロー収益	外部顧客への 売上高
教育	960,515	-	-	-	960,515
スタジオ・コンテンツ	-	452,687	110,211	21,759	584,657
制作事業	-	407,348	-	-	407,348
その他	-	45,339	110,211	21,759	177,309
放送	512,227	122,531	-	-	634,758
技術	90,782	105,934	789,868	3,295	989,880
アカマイサービス	-	-	771,728	-	771,728
その他	90,782	105,934	18,140	3,295	218,152
その他	7,714	20,169	-	5,789	33,673
合計	1,571,239	701,323	900,079	30,843	3,203,486

(注) 1 独自商製品等のストック収益とは、教育サービス・放送の視聴料・技術の企業向けクラウドサービス等、オリジナルサービスの提供等に伴う収益が該当し、原則継続的に積み上がる収益です。

独自商製品等のフロー収益とは、スタジオ・コンテンツや放送の制作・広告・スポンサーの収入等、オリジナルサービスの提供等に伴う収益が該当し、都度計上される収益です。

独自商製品以外のストック収益とは、スタジオ・コンテンツのコンテンツ配信や技術のアカマイサービス等、第三者が原権利を有している商製品の提供等に伴う収益が該当し、原則継続的に積み上がる収益です。

独自商製品以外のフロー収益とは、スタジオ・コンテンツの番組販売等、第三者が原権利を有している商製品の提供等に伴う収益が該当し、都度計上される収益です。

2 報告セグメント変更等に関する事項

当第1四半期連結会計期間より、セグメント情報等に記載のとおり報告セグメントの変更をおこなっております。

なお、前第1四半期連結累計期間の顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、変更後のセグメントの区分に基づき作成しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。